

幼児教育学科の主要科目の概要

教育科目：「地域と子どもⅠ」

幼児教育学科の学生としての基本的な学びの姿勢を修得する。本学の建学の精神「愛と理性」、教育理念「創造」を基盤におき、入学当初から少人数のゼミでの学習を通して「自らが学ぶ」という積極性が必要であることを自覚する。

総合科目：「卒業研究」

保育で用いる教材作成をテーマとする。2年間の学びの集大成として、教材研究の経過を論理的・系統的にまとめて発表する。

実習関連科目：「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」

保育所・施設・幼稚園の機能や役割を理解して、保育の方法を身に付ける実践学習である。実際に子どもと触れ合い、保育者の援助を間近に見ることで、子どもたちの発達・興味に即した保育の方法について学んでいく。また、実習記録を書くことや実習担当者から助言を受けることで、自分の保育を振り返り子ども理解が深まっていく。

教育及び保育基礎技能科目：「音楽Ⅰ」「造形Ⅰ」「幼児体育Ⅰ」など

音楽・造形・幼児体育等子どもの活動を通して、学生自らが表現する楽しさや喜びを実感し、子どもの表現を支える保育者として、必要な知識・技能・表現力を身に付ける。

教育及び保育の内容・方法に関する科目：「保育内容（言葉）」「保育内容（環境）」「保育内容（健康）」「保育内容（人間関係）」「保育内容（総合表現）」

幼児期の教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を踏まえ、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園保育・教育要領によって明示された保育内容の5領域「言葉」「環境」「健康」「人間関係」「表現」に関して、それぞれの科目で基礎的な知識の理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい具体的な指導場面を想定して保育環境を構想し実践する方法を身に付ける。

以上